

## 東京湾で多く見られるようになった移入種について

村上知里・渡辺孝夫

### 1. ホンビノスガイ

学名: *Mercenaria mercenaria*

分類: Veneridae マルスダレガイ科  
*Mercenaria* ビノスガイ属

形態: 顕著な輪肋と弱い放射肋がある厚い殻を持ち、殻の外部は淡いグレーからベージュを呈する。まれに放射模様を持つものもある。殻の内側腹縁にはこまかな刻みがみられる。内側の色は白く、後方や縁辺が濃い紫色になるものもある。稚貝の時は輪肋が板状に立ち上がり顕著である。

生息地: 生息地はアメリカの東岸のインディアン・リバー・ラグーンや、フロリダ半島からテキサスのガルフ海岸にかけての海岸 15 m 以浅である。1990 年代中頃東京湾の湾奥で幼貝が発見され移入種として定着している事が報告された。

生態: 浅瀬の砂泥底に生息し、懸濁物食性。本種は約 1 年で生殖可能となり、通常寿命 4 年から 8 年で殻長 10cm 程度まで成長する。温度 5℃ から 30℃ 程度、塩分 10ppt 以上で生息可能である。

生殖・発生: 雄性先熟であり、幼貝の 98% が雄として成熟し、成長に伴い雌雄比が雄から雌に偏ってゆく。アメリカ東岸では、放卵放精は夏から秋に行われる。東京湾でも夏から秋に多くの着底稚貝が確認されていることから、生殖期は夏であると思われる。卵は直径が 70-90  $\mu\text{m}$  で、受

精後 12 時間でトロコフォラ幼生に達する。20-24 時間でベリージャ幼生となり浮遊し、12-14 日で殻長は 200-210  $\mu\text{m}$  となり着底する。幼生は 12.5℃ 以上で生息可能であり、22.5℃ から 36.5℃ の間で成長する。塩分は 20-32.5ppt のとき正常に発生する。

利用: アメリカでは養殖もされ、年間約一億個体の貝が養殖場から出荷されている。

シノニム: *Venus mercenaria*

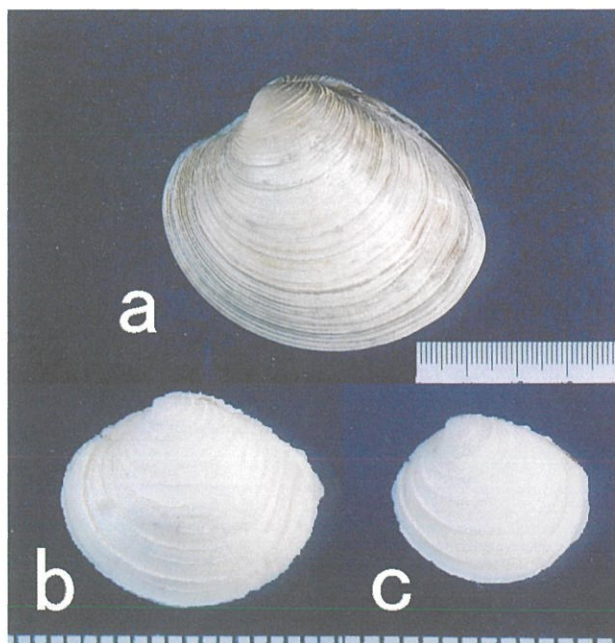


図1 *Mercenaria mercenaria* ホンビノスガイ (撮影: 藤原 直)  
スケールは全て 1 目盛り 1mm  
a 成貝 b 殻頂 1.5mm 程度の稚貝 c 着底後まもない稚貝

## 2. ウスカラシオツガイ

学名：*Ptericola* sp. cf. *lithophaga*

分類：Ptericolidae イワホリガイ科

*Ptericola* シオツガイ属

*Ptericola lithophaga* セイヨウイワホリガイと形態がよく似ているが、穿孔性がないことから、近縁の別種であると考えられている。

形態：シオツガイに似て、殻は細長く放射肋がある。殻全体は白から淡い褐色で殻頂部が褐色になる。殻の内側は白い。

生息地：原産は不明。1990年代初頭から東京湾の湾奥で幼貝が発見され、東京湾や瀬戸内海などで定着している事が報告された。

生態：本種は低塩分にも十分に対応し、海水だけでなく汽水域にも生息しているようである。穿孔性はなく、温排水中のゴミや海藻などに付着していたという報告もある。殻長は3cm程度まで成長する。

### 引用文献

- 1) 黒住 耐二・岡本 正豊 2002 近年、南関東に定着した移入貝類。日本貝類学会平成14年度大会(西宮)研究発表会要旨。

生殖・発生：東京湾では着底稚貝の出現時期から、生殖期は夏頃であると思われる。

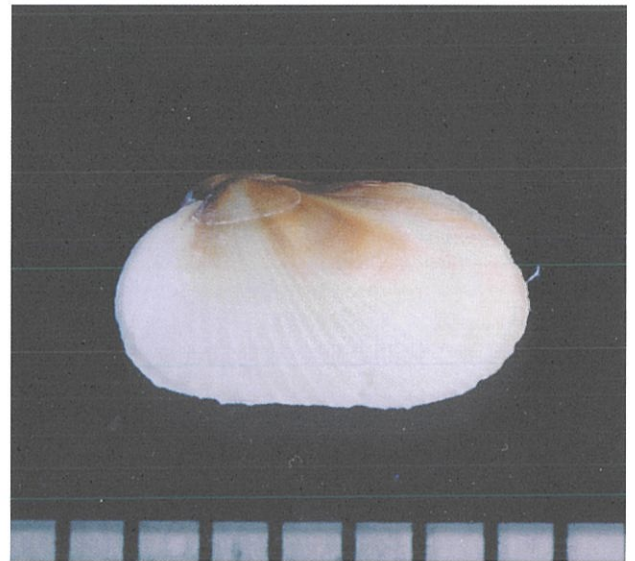


図2 *Ptericola* sp. ウスカラシオツガイ  
(撮影：藤原 直) スケールは1目盛り1mm

### 参考 Web サイト

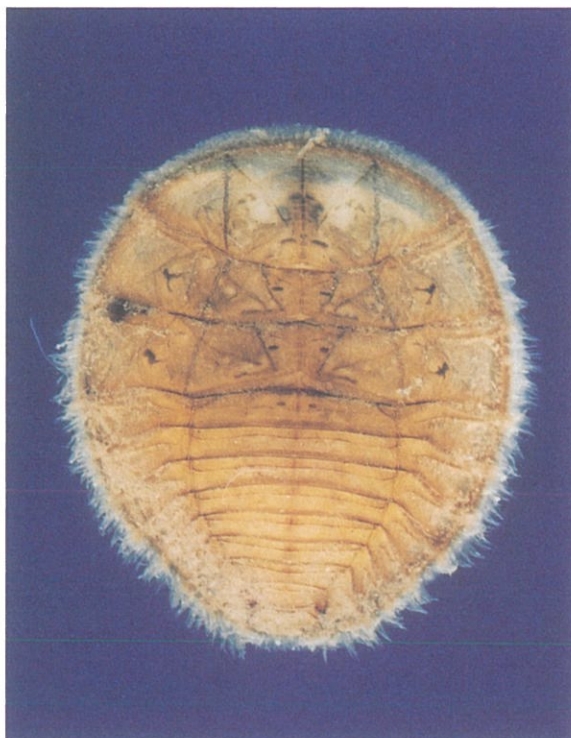
- 1) 東京品川区京浜運河の貝,  
<http://members12.tsukaeru.net/aono/index.html>
- 2) *Mercenaria mercenaria*, Smithsonian Marine Station at Fort Pierce,  
<http://www.mnh.si.edu>





*Bibiocephala* sp. クロバアマミカ属の一種 (ハエ目 アミカ科)

アミカ科の中では大型で 10mm を越える。河川上流域の急流に生息し、腹面の吸盤で水面下の岩石に吸着して生活している。1年に1回羽化し、成虫は春に出現する。



*Mataeopsephus* sp. ヒラタドロムシ属の一種 (コウチュウ目 ヒラタドロムシ科)

河川の上流域から下流域の流れのある場所に生息。岩や礫に密着して生活している。特徴である、丸い陣傘のような平たい体型は水の抵抗を和らげるのに役立っている。